

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	第20回小津安二郎記念・蓼科高原映画祭記念事業
事業主体 (連絡先)	小津安二郎記念・蓼科高原映画祭実行委員会 (0266-72-2101)
事業区分	⑥1ア 特色ある観光地づくり ③教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,523,276 円 (うち支援金: 2,642,000 円)

事業内容

- (1)市内の新しい客層に向けたプレイベントの開催
 - ・ CinemaDay 八ヶ岳観光協会タイアップ『岳』
 - ・ CinemaDay 茅野市体育協会タイアップ『奈緒子』
 - ・ 東京フィルメックス presents 親子鑑賞会
 - ・ ママシネマ『orange』
 - ・ 屋外シアター(仮面の女神誕生日パーティー)
 - ・ 小津を奏でる
 - ・ 中学生わくわくシネマワークショップ
- (2)首都圏 PR 事業
銀座松竹スクエアで小津監督作品『東京物語』の上映。
- (3)高校生スタッフ養成講座
アナウンス部門/ステージホスピタリティ部門で実施。



【屋外シアターの様子】

【目標・ねらい】

- ①映画文化の定着を図る。
- ②小津の知名度を活かした首都圏からの誘客。
- ③新たな担い手の育成
- ④映画祭来場者目標 4,000 人
(第19回 1,700 人)

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①「子育て世代」「小学生と保護者」「中学生」等、対象を明確にしたイベントを行ったことで、これまでにない新たな客層に訴求することができた。
- ②小津が愛した蓼科の高原野菜と地酒「ダイヤ菊」を提供しながら、小津映画『東京物語』を上映した。募集開始2日間で募集定員を満了し人気ぶりだったことから首都圏からの誘客の可能性を感じた。
- ③養成講座で学んだ知識と技能を活かして、高校生がはつらつと活躍し、映画祭全体の賑わいに繋がった。
- ④来場者実績 5,439 人

※自己評価【B】

【理由】
目標・ねらい①～④に定めたものについて、概ね予定していた効果が得られたと考えられるから。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

実行委員会の世代交代を視野にいれ、持続可能な映画祭を目指して活動を続けていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある